

小国公立病院

病院事業管理者 片岡 恵一郎



北里柴三郎先生生誕の地からのご挨拶

令和三年の四月より、小国公立病院の病院事業管理者を務めさせて頂いている片岡恵一郎と申します。

私は、平成八年に熊本大学循環器内科に入局し、泰江弘文先生、小川久雄先生の元で循環器内科の臨床医学を学びました。その後、熊本大学大学院で基礎研究に携わらせていただき、現在東京大学の栗原裕基教授の元で発生学・再生医療を学び、その後、光山勝慶教授の元で、熊本大学の薬理学の教員を七年半程務めさせて頂きました。この間は、循環器臨床と基礎研究というフィールドでグローバルな物事の捉え方を多くの先生方に教えていただきました。

二〇二一年の東日本大震災をきっかけにして、ローカルよりの事に興味をもつ様になり、二〇二二年十月に現在の小国公立病院に赴任いたしました。十年以上も臨床から離れて、その後、地域医療にどっぷりはまってしまっているというのは、ちょっと珍しいタイプの地域医師なのかもしれません。

小国公立病院は、小国町・南小国町の両町が運営する病院で、地域唯一の病床を持つ病院です。当院の機能を一言で表現すると、地域密着型多機能病院となります。阿蘇北部地域の約一万一千人の人口をカバーしておりますが、このエリアには、民間のクリニックが三つしかなく、当院がかかりつけ医の機能も担っており、プライマリーケア、急性期、回復期、慢性期、看取り、在宅医療、介護／福祉の分野を含めた地域包括ケアシステムの構築まで幅広い機能を担っています。さらに、小国は北里柴三郎先生の生誕の地ということ、新千円札が発行される二〇二四年に向かつて、地域医療にとっても爽やかな追い風が吹いております。近年の医学の進歩で、我々は、人類

史上最高の平均寿命を獲得し、その目指してきた世界、つまり高齢化社会に到達することに成功しました。健康寿命も延びており元氣な高齢者が益々増えてきています。地域医療と地域ケアは次の目標を定める必要があります、そのキーワードの一つが、“豊かさ”や“well-being” になってくると考えています。

高齢化の進んだ地方では、医療のみでは自分らしい人生を送ることはできません。医療と豊かな人生の架け橋となる様な病院づくりを、病院外の多職種・多業種との連携により実現していくのが、新設された病院事業管理者という職に課された使命であると認識しております。

豊かさのない世界では、地方の切り捨てと個人の切り捨ては同じロジックで行われます。勝ち負けを争い、勝ち組だけが生き残っていく社会ではなく、誰一人取り残さない豊かな社会を、次世代の為に構築していく義務が私達の世代には課されています。その為には持続可能な形での多様性の受容は不可欠であり、その中で医療とケアの占める位置づけは小さなものではないと考えています。

歴史ある肥後医育振興会の皆様方に、より一層のご指導・ご鞭撻を賜りなが

ら、地域の肉体的・精神的・社会的なwell-beingを支えるという地域医療の使命を果たしていく所存です。今後ともよろしくお願いいたします。

